SDY-005/ランドブリーズ 5LX
SDY-006/ランドブリーズ 6LX

取扱説明書

SDY-005
SDY-006

このたびは、スノーピーク製品をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。
安全にご使用頂くためにも本取扱説明書を必ずお読みください。
取扱説明書は大切に保管してください。

注意事項

フィールドでは予測不可能な事態が突発的に発生し、時には製品の性能を超えるような状況に直面する場合もあります。以下の説明がすべての危険な状況を説明している訳ではありません。製品の性能をよく理解したうえで安全なキャンプをお楽しみください。

火気厳禁

□このテントの素材は難燃性ではありません。テント内では燃焼式のランタンやコンロ、ヒーターなどの熱源や、マッチ、ローソク、ライター、タバコなど裸火や炎は絶対に使用しないでください。限られた空間での火気の使用は火災や酸欠、一酸化中毒などの恐れがあり大変危険です。

□テント内で燃料を保管したり、燃料を補給するなど、引火性のあるものを持ち込まないでください。

□高温に加熱されたものや発熱性のあるものを持ち込まないでください。

天候・気象状況

□気象状況には常に細心の注意を払い、悪天候が予想されるときは速やかにキャンプを中止して安全な場所へ避難してください。万一悪天候にみまわれた場合や、風の強い時などはペグや張り綱がしっかりとつながれているかなどを点検してください。

□急な積雪によりフライシートの裾が覆われたり、低温下で氷結したときなど、極端に通気性が悪くなります。こまめに除雪したり入り口を開けるなどして常に換気をしてください。

□日差しによりフライシート表面は低温やけどに発展するほどの高温になります。十分にご注意ください。

□天候によりテント内は高温になり、熱中症などの危険があります。お子様の昼寝の際など、細心の注意を払ってください。

設営・設営場所

□風の吹きぬけるような場所や、雪崩、がけ崩れ、急な出水などの恐れのない地盤のしっかりとした、水はけのよい平坦な場所を選んで設営してください。

□燃焼式のランタンやコンロ、ヒーターなど熱源のそばで組み立てたり、使用しないでください。万一熱源が転倒したり落下しても延焼しない距離を保ってください。

□たき火や花火などのそばで組みたてたり、使用しないでください。特に風下側では火の粉を履り、生地に穴をあけてしまう場合があります。

□樹液が付着してしまうときれいに除去することはできません。樹液が垂れそうな木の下を避けて設営ください。溶剤などにより無理に除去すると生地やコーティングを痛めます。

□テントの設営・撤収の際は、フレームをしっかりと掴んで作業してください。フレームの先端がハネ返るなどして思わぬ事故になりますので、近くに人がいないかなど、周囲の安全を確認してください。

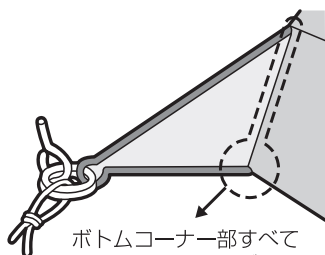
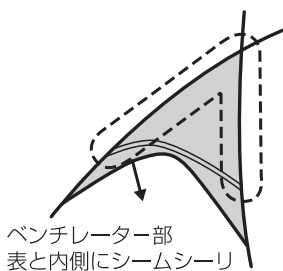
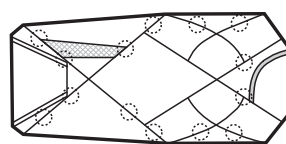
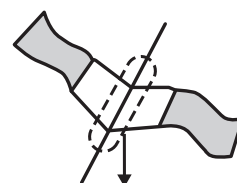
□ペグや張り綱でしっかりと固定してご使用ください。

□本製品は常設用として使用できる仕様ではありません。

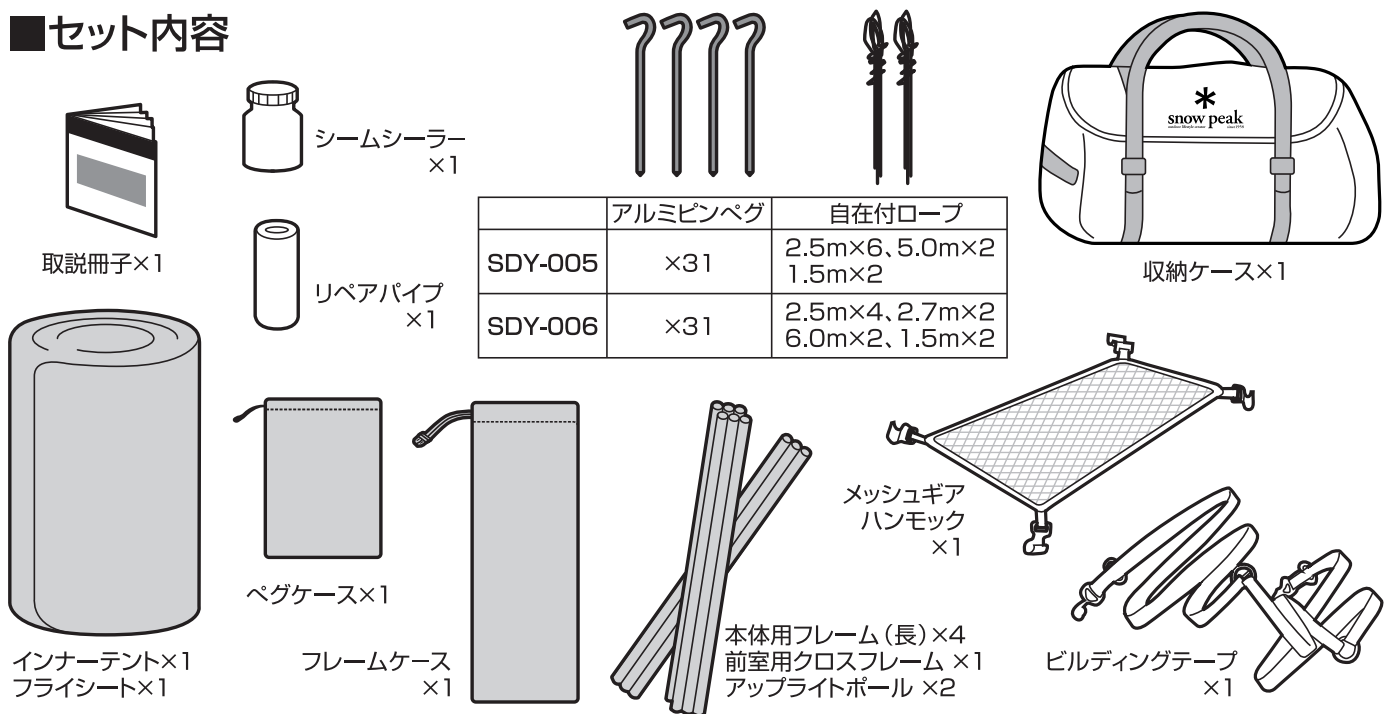
初めてお使いになる前に

□品質には万全を期しておりますが、お使いになる前に必ず試し張りを行い、付属品や設営手順を確認してください。万一不具合があった場合は、お買い求めになった販売店または弊社ユーザーサービス係までお問い合わせください。

シームシーリング剤による目止めについて

□縫製部分にはシームテープによる防水処理が施してありますが、フライシートのベンチレーター部やファスナー部分、ボトムシートの一部は、製造の都合上または構造上シームテープが施せない部分があります。通常の雨には十分対応できますが、長時間の大雨や横なぐりの雨、地面に雨水が溜まっているような状態では、縫い目から雨水が侵入することがありますので必要に応じて縫い目にシームシーリング剤（目止め液）を塗布してください。シームシーリング剤は縫い目にそって表裏の両面からうすく塗布し、よく乾燥させてください。シームシーリング剤は時間とともに硬化してきます。剥離したときは塗布しなおしてください。

ボトムコーナー部すべてにシームシーリング剤を塗布してください。

ベンチレーター部表と内側にシームシーリング剤を塗布してください。

フライシート表側ずれ防止ベルクロテープ部丸印14ヶ所。

フライシート裏側ずれ防止ベルクロテープ部の表と裏側にシームシーリング剤を塗布してください。

■セット内容

	アルミピンペグ	自在付ロープ
SDY-005	×31	2.5m×6、5.0m×2 1.5m×2
SDY-006	×31	2.5m×4、2.7m×2 6.0m×2、1.5m×2

□セット内容は一般的な条件下での設営を基本としたものです。頑丈で長めのペグや、ロープなどを用意されると、柔軟な対応が可能となります。ペグやロープ、自在などは消耗品ですので、常に予備を携行することをお勧めします。
※前室用クロスフレームは、組立を補助する為、一部に曲げ加工を行っております。

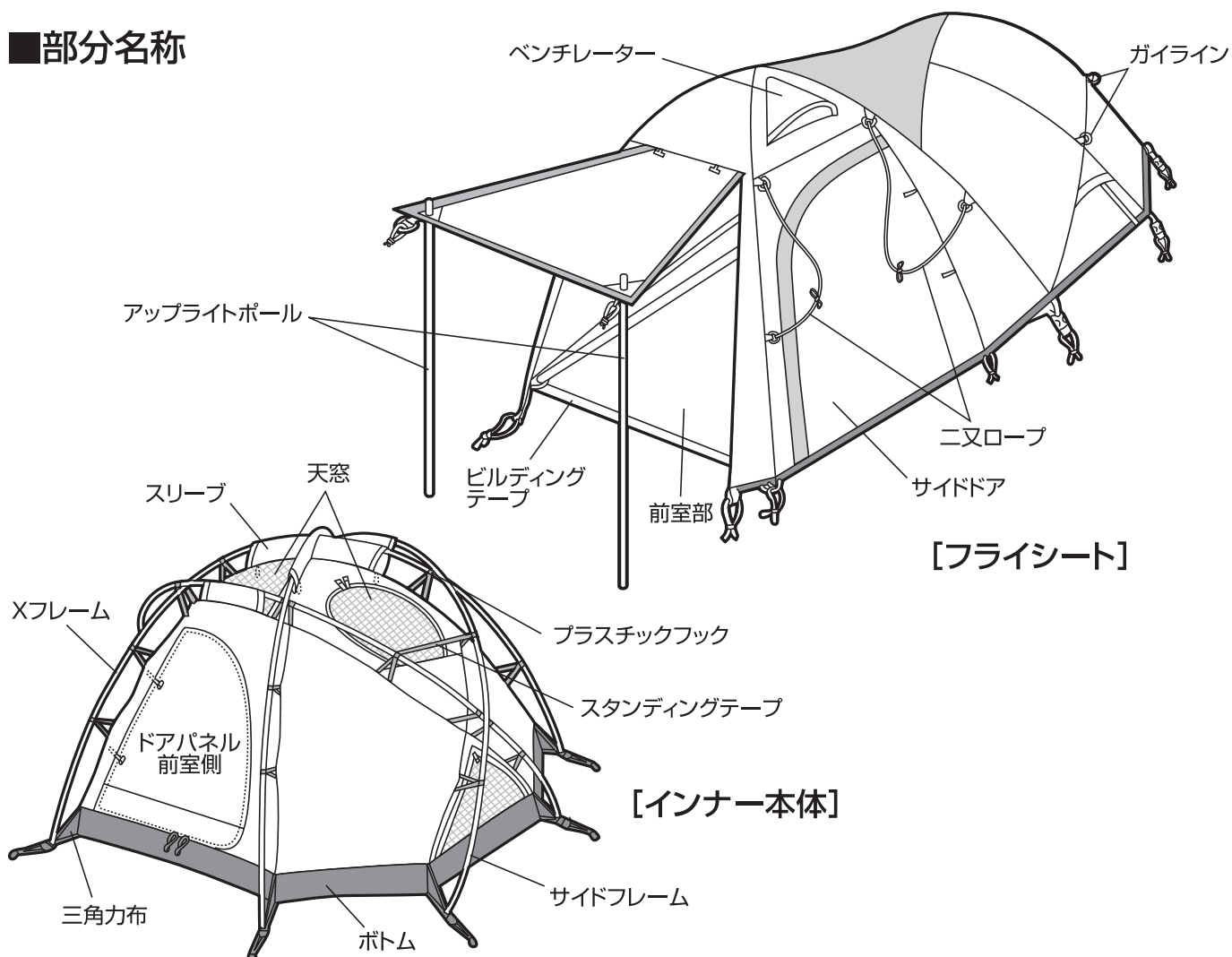
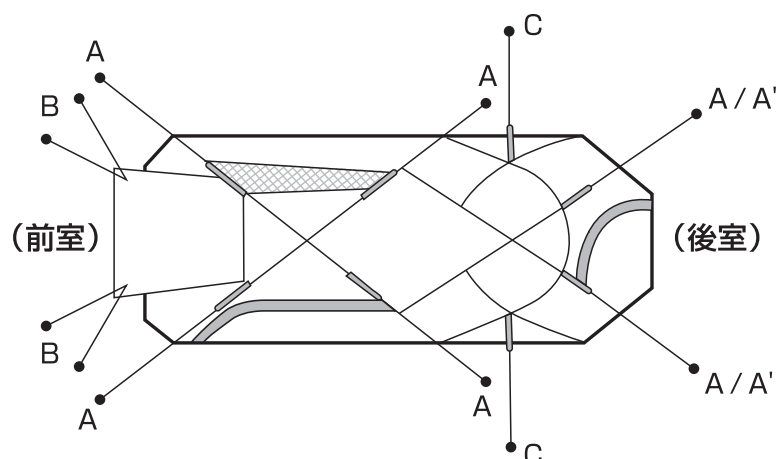
■部分名称

ベンチレーター
ガイライン
アップライトポール
二又ロープ
サイドドア
ビルディング テープ
前室部

［フライシート］

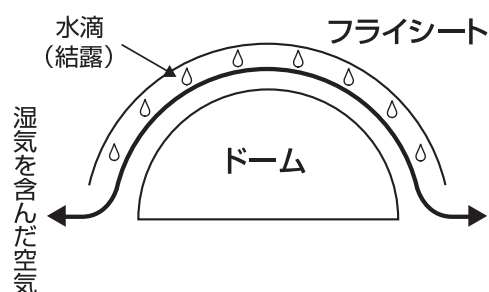
天窓
スリーブ
Xフレーム
プラスチックフック
スタンディングテープ
ドアパネル 前室側

［インナー本体］

三角力布
ボトム
サイドフレーム

■フライシートへの張り綱取付け

SDY-005	SDY-006	
A:2.5m×6	A:2.5m×4	A':2.5m×4
B:5.0m×2	B:6.0m×2	
C:1.5m×2	C:1.5m×2	

■テント天井部には小物を吊すループが付いています。1kgを超えない範囲でご使用ください。

■結露について

空気中に含まれている水分が急激に冷やされて霧状になったものが結露として現れます。特に狭いテント等の空間では、通常の室内よりも水蒸気の濃度が高くなり結露の発生する確率が高くなります。原因としては、人体構成要素の約60%を占める水分が、呼吸や汗などにより放出され、水蒸気となりテント内に結露が発生します。テント内では、特にフライシート・ボトム部分などの防水性能が高い部分に結露が発生しやすくなります。結露は優れた透湿防水素材でも使用状況により完全に防ぐことは不可能です。ご使用中は結露軽減のために適時換気を行なってください。

設営の手順

設営は必ず2人以上で行なってください。

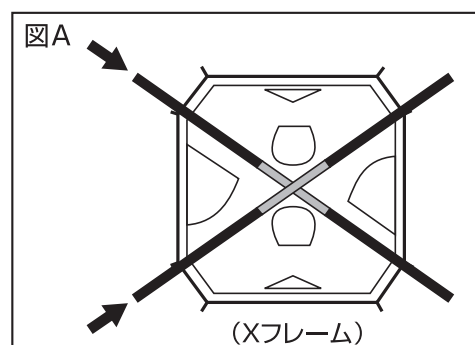
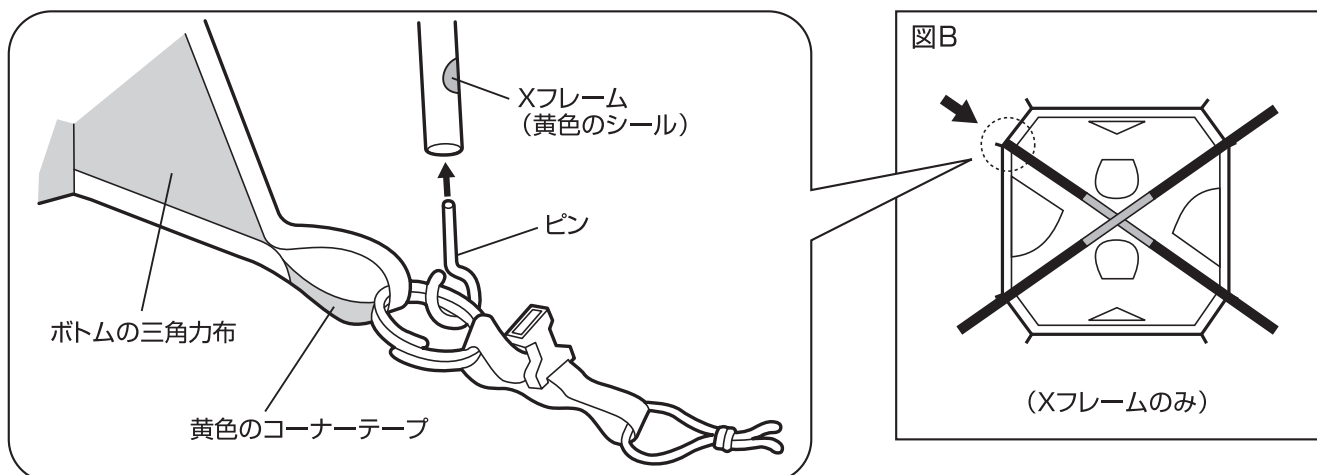
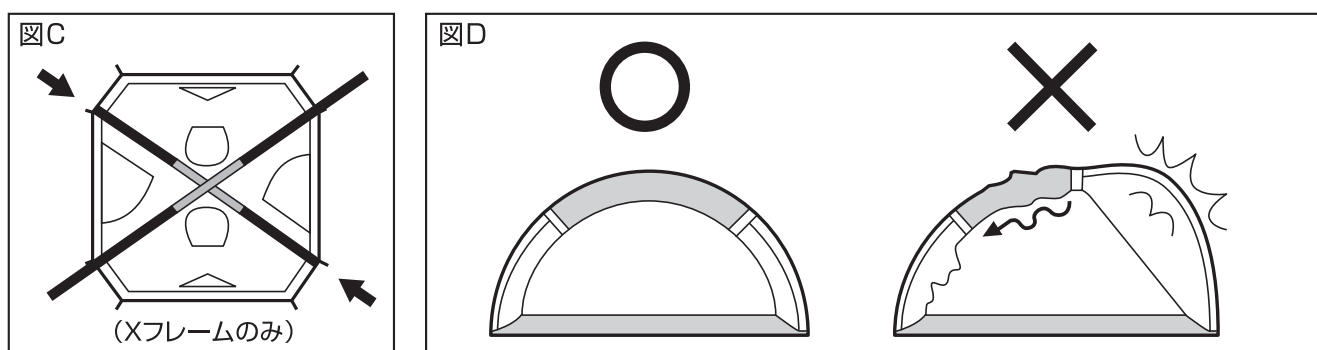
1)テント本体を平らな場所に広げます。

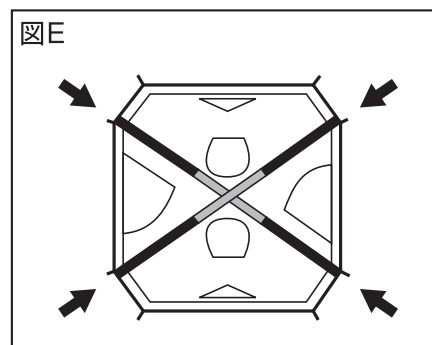
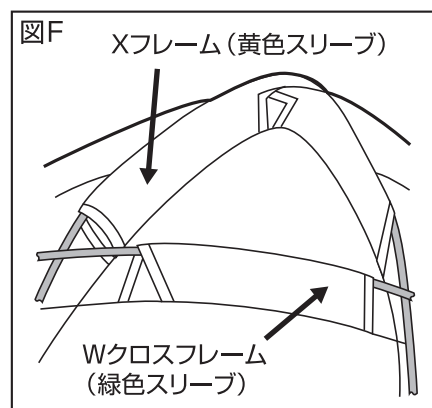
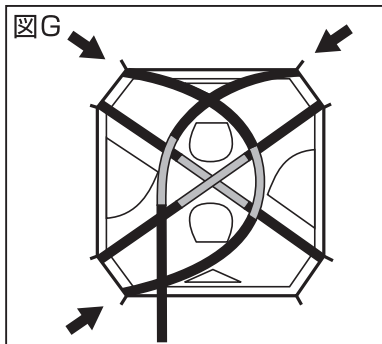
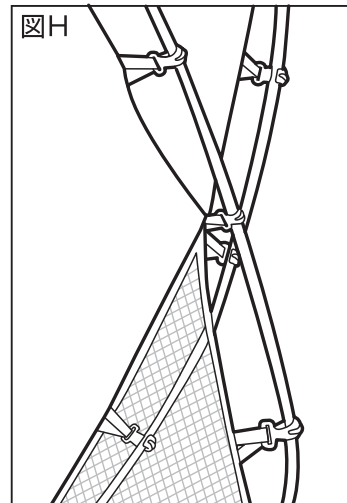
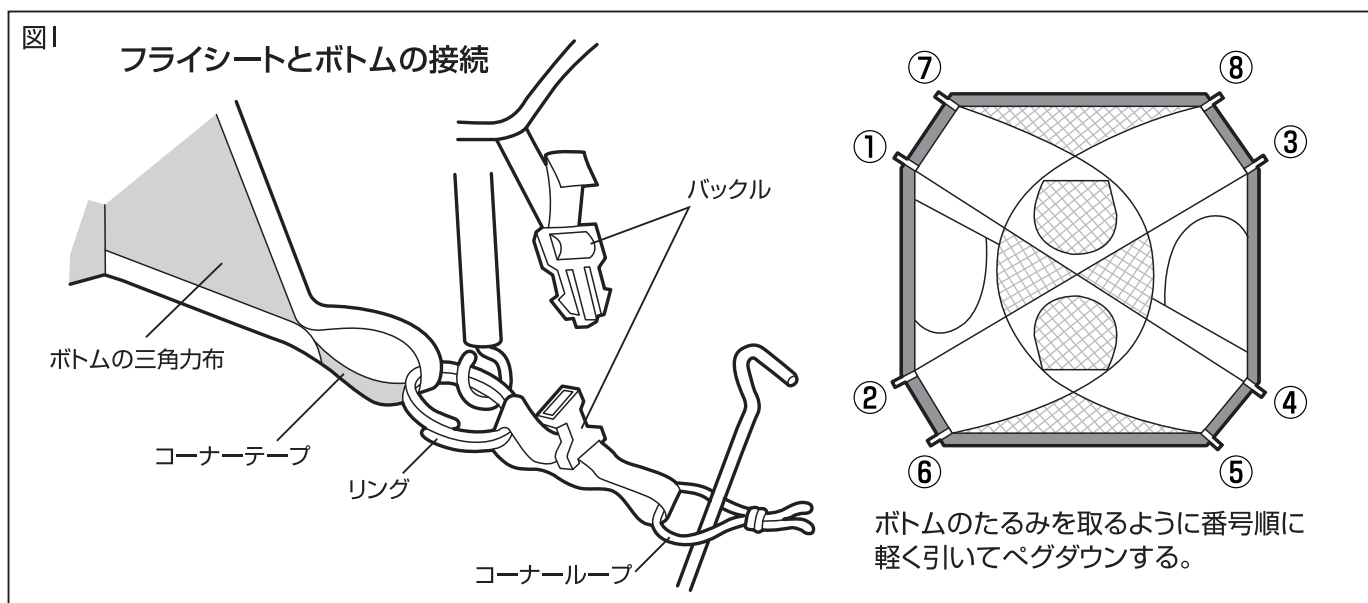
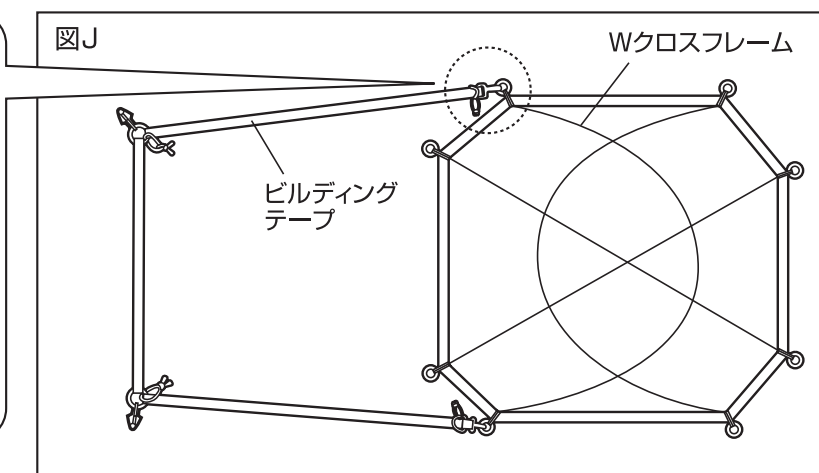
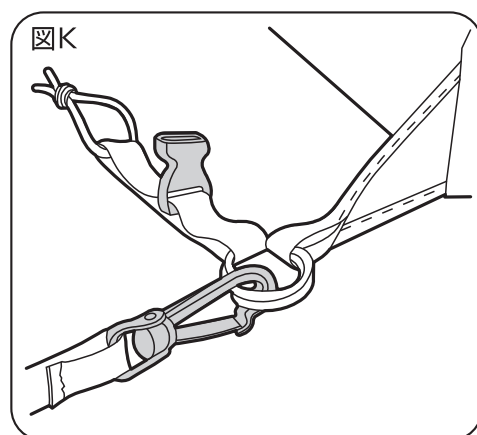
※テント本体の出入口は2カ所ありますが、フライシートには前室と後室との区別があり、主に前室側がメインの出入口となります。あらかじめ風雨などの予測をし、前室の方向を決めておくことが必要です。

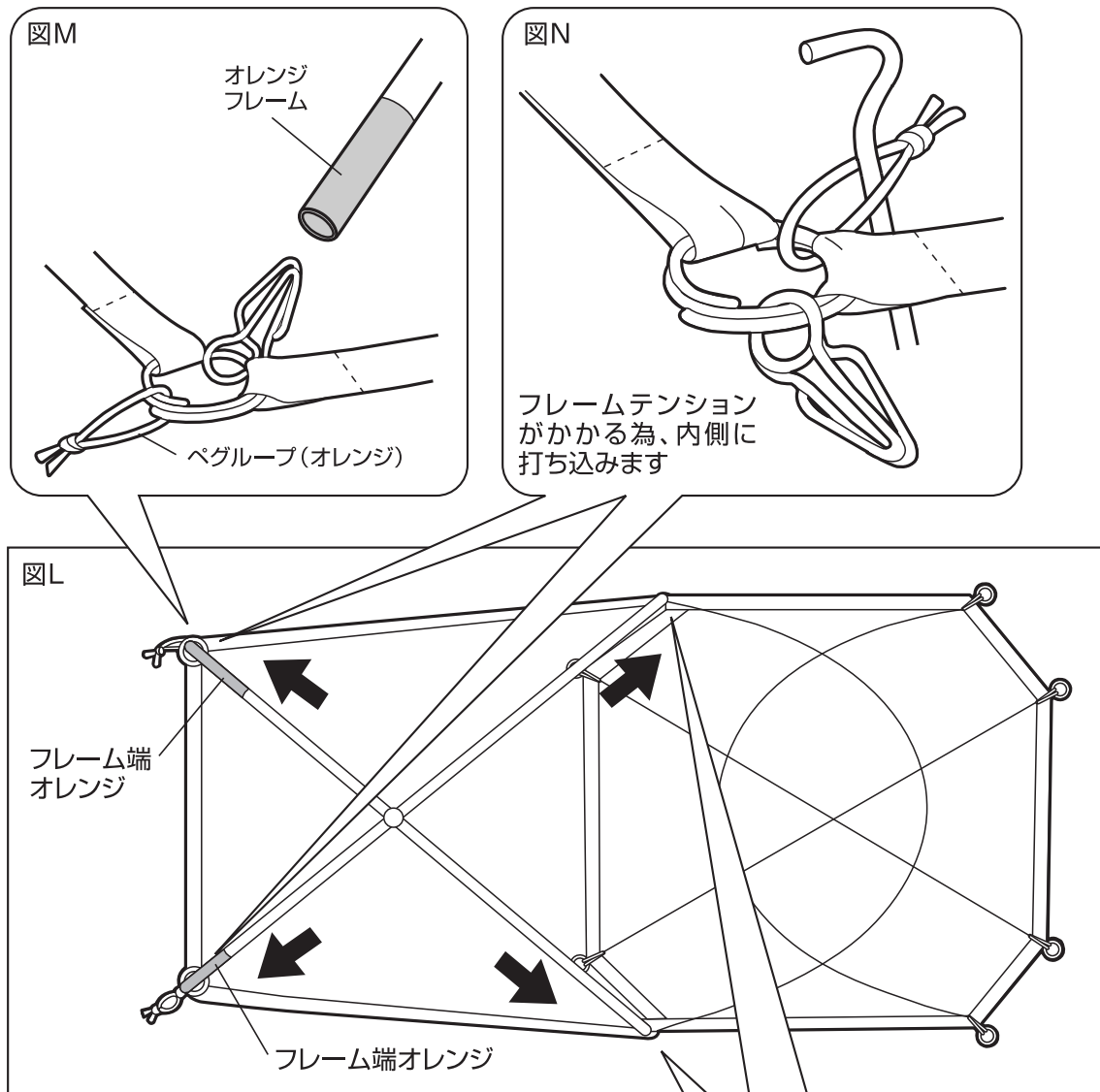
※基本的に前室は風下に向けます。風上に向けると、風雨が侵入するばかりかドアを開けた際に突然風が入り、本体を破損する場合があります。

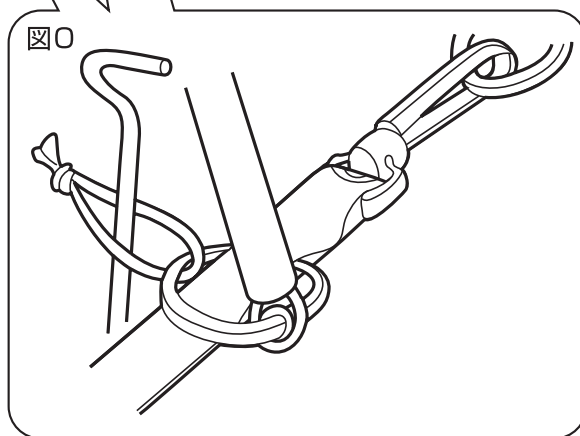
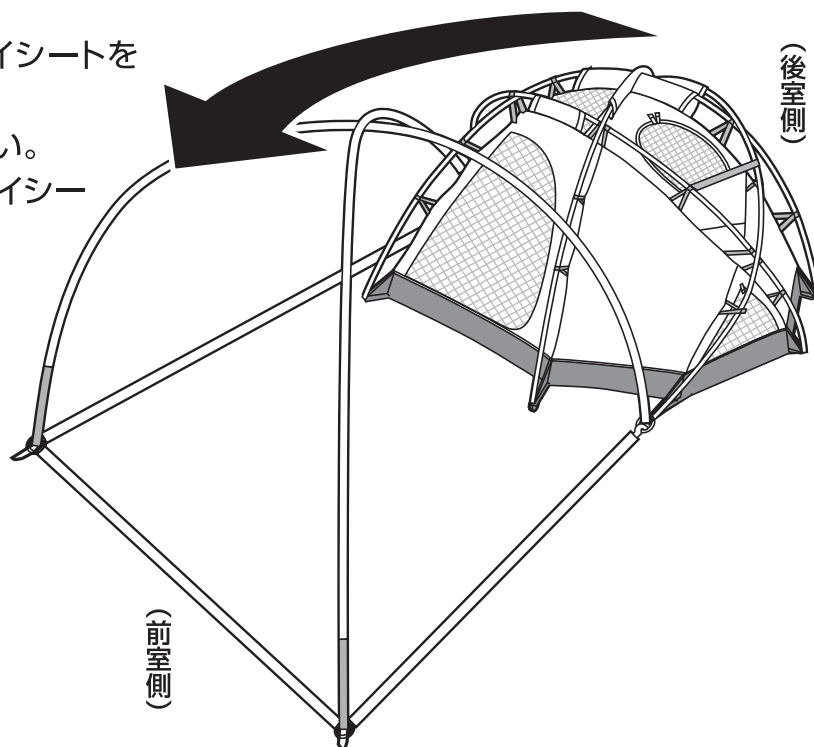
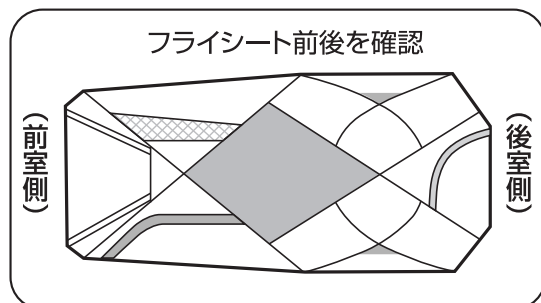
※テント本体の出入口は、ボトムの立ち上がりの低い方が前室側となります。

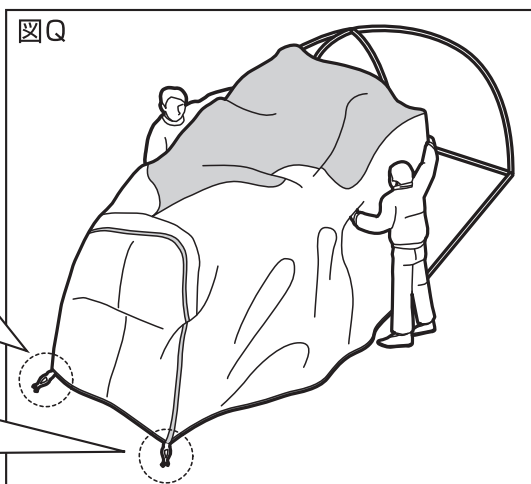
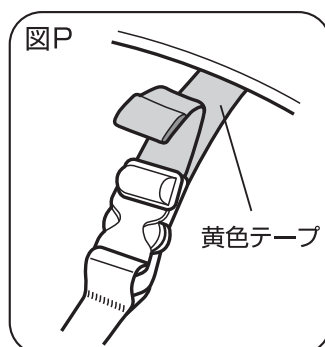
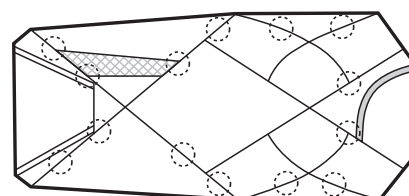
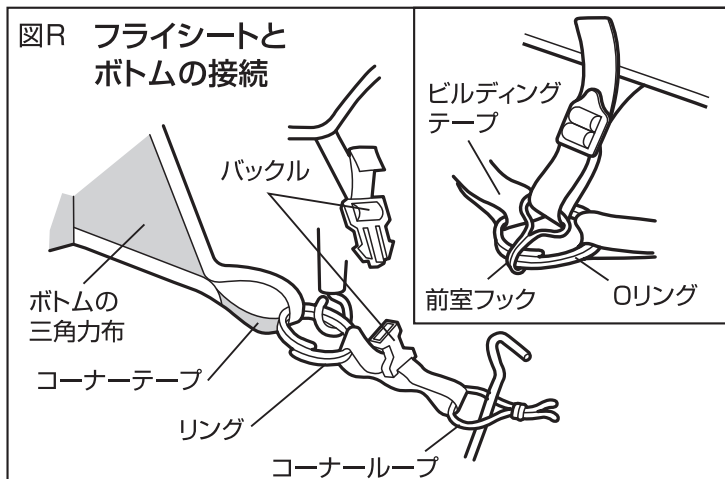
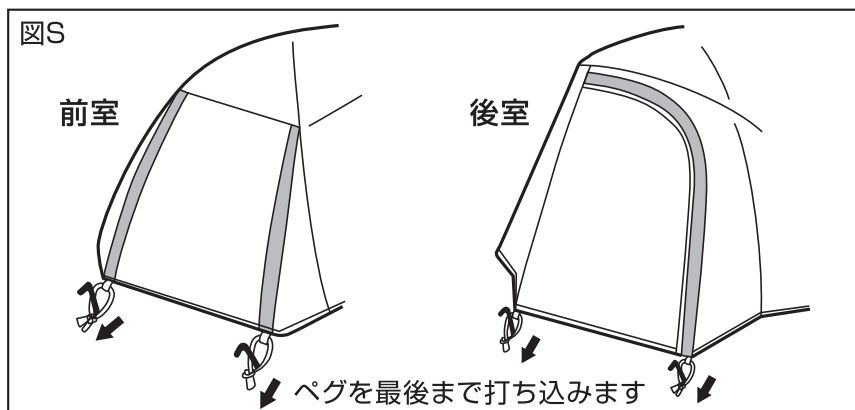
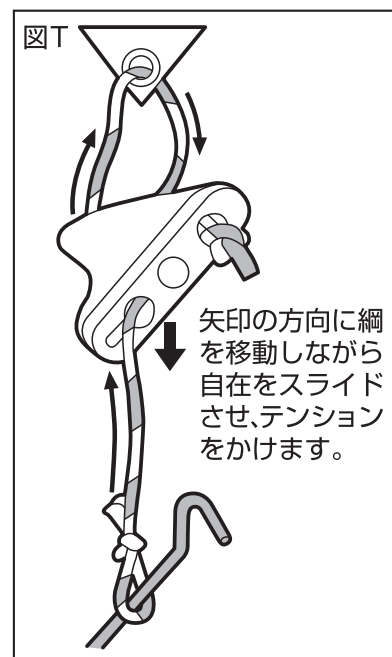
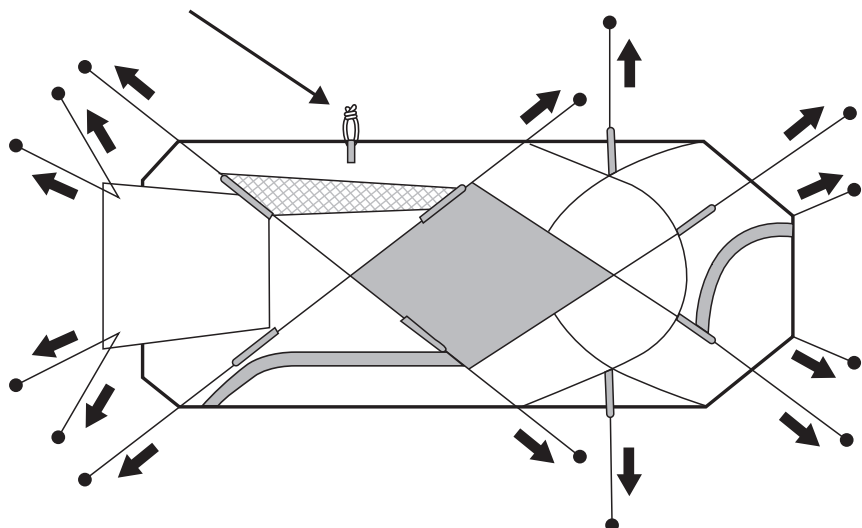
2)先端に黄色のシールがついたフレーム(以後Xフレーム)を伸ばし、接続部分をしっかりと連結します(2本)。
フレームの連結部分にすき間ができないように、しっかりと差し込んでください。

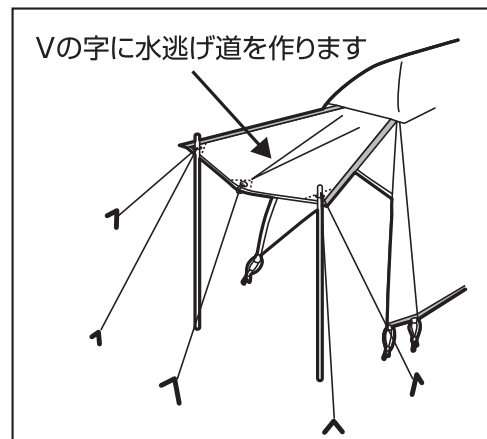
3)2本のXフレームを黄色の表示のあるスリーブに1本づつゆっくりと送り込みます。〔図A〕

4）Xフレームの先端にピンを差し込みます。（Xフレームのコーナーテープは黄色です。）〔図B〕

5）差し込んだXフレームの反対側の先端にピンを差し込みます。〔図C〕
※スリーブの位置が中央になる様に本体を調整しながら、ゆっくりとフレームの端部にピンを差し込んでください。一方から強引に押し込むと反対側が大きく湾曲し、フレーム破損の原因になります。〔図D〕
※反対側の人と声をかけ合いながらフレームにピンを差し込んでください。

6）もう1本のXフレームを、同じ要領でピンに差し込み、テントを立ち上げます。〔図E〕
※ドアパネルや三角窓を半分位開けておくと空気が室内に入りうまく立ち上がります。

7）先端に緑色のシールがついたフレーム（以後Wクロスフレーム）を伸ばし、接続部分をしっかりと連結します（2本）。
フレームの連結部分にすき間ができないように、しっかりと差し込んでください。

8）2本のWクロスフレームを緑色の表示のあるスリーブに1本づつ、ゆっくりと送り込みます。Wクロスフレームは Xフレームの上を通してください。〔図F〕

9)Wクロスフレーム両端にピンを差し込みます。(Wクロスフレームのコーナーテープは緑色です。)〔図G〕

10)本体に付いているプラスチックフックを各々のフレームに引っ掛けます。〔図H〕

11)前後のドアパネルのファスナーを全て閉めます。次に8カ所のコーナーテープ先端に付いているループにペグを通し、ボトムのたるみを取る様に番号順に軽く引き打ち込みます。〔図I〕
※ペグは最後まで打ち込んでください。
※ペグは無理に打ち込むと、曲がりや折れなどの破損につながります。少しずつ打ち込み、石などの障害物に当たった場合は場所を変えてから打ち込んでください。
※ファスナーを閉めずにペグダウンすると、ドアが閉められなくなることがあります。

12)付属のビルディングテープを取り付けます。〔図J〕
ビルディングテープ先端の樹脂フックをWクロスフレーム、エンドリングに引っ掛けます。〔図K〕

13)前室用クロスフレームを伸ばし、接続部分をしっかりと連結します。
※フレームの連結部分にすき間ができないように、しっかりと差し込んでください。

14)ビルディングテープコーナー部のピンにフレーム両端を差し込みます。〔図L〕
※この時、前室用クロスフレームの端がオレンジ色フレーム（2本）を、ビルディングテープフロントコーナー（オレンジ色のペグループ付）に差し込みます。〔図M〕

15)ビルディングテープのたるみを取りテンションが掛かるようにコーナーに付いているループにペグを通し打ち込みます。〔図N〕
※ペグは最後まで打ち込んでください。
※ペグは無理に打ち込むと、曲がりや折れなどの破損につながります。少しずつ打ち込み、石などの障害物に当たった場合は場所を変えてから打ち込んでください。
※テント本体側の前室クロスフレーム2ヶ所のペグは、ビルディングテープが真っ直ぐになる様に、前室内側に引いて打ち込みます。〔図O〕

図O

16）前室・後室の方向を確認し、フライシートを被せます。
※必ず2人以上で作業してください。
※本体後室から前室に向ってフライシートを被せていきます。

（a）フライシート後室裾の黄色テープバックル2ヶ所をインナーテントボトム側に付いているバックルに接続します。〔図P〕

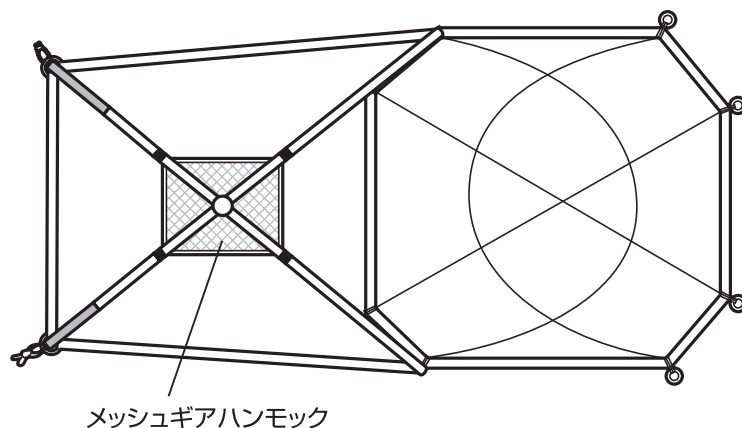
（b）後室側から前室側に向かってフライシート左右を持って、全体に被せていきます。〔図Q〕

（c）フライシートの内側についているずれ防止のベルクロテープをフレームに巻き付けて固定します。（ベルクロテープは張り綱と共に製品強度（風や雪など）に影響しますので必ず固定してください。）

（d）フライシート裾の8個のバックル／前室フックをテントボトムバックル／ビルディングテープ付Oリングに接続します。
全てのバックル／フックを接続した後、フライシートの弛みをとる為にテープを引き、テンションをかけます。〔図R〕
※引きすぎにご注意ください。引きすぎますと、フライシートを破損する恐れがあります。

17)ドアパネルのファスナーがしっかり閉まっていることを確認し、前室・後室の先端を引き、ゴムループにペグを通し、打ち込みます。〔図S〕
※引きすぎにご注意ください。引きすぎますと、ファスナーに負担がかかり破損する恐れがあります。

18）各張り綱を伸ばし、ペグを打ち込みます。
※前室サイドパネル下部はゴムループにペグを通し、打ち込みます。

19）張り綱の自在を引き、テンションをかけます。〔図T〕
※引きすぎにご注意ください。引きすぎますとフライシートに負担がかかり破損する恐れがあります。
注）突風で飛ばされたり、フレームを曲げない為にも張り綱はしっかりとペグダウンしてください。

20）出入口用ドアパネルを張り出す場合は、付属のアルミポールを2本使い、二又のロープで立ち上げてください。シワが残らない様にロープの方向を調整してください。
注）降雨時のドアパネルは、水が溜まりやすくなりますので、ポールを斜めに倒し勾配をつけるか、前面中央を大きくV字にロープで下げ、水の逃げ道をつくり溜まらないようにします。

■付属品に関して

メッシュギアハンモック

前室クロスフレーム天井部分にメッシュギアハンモック四隅のフックを掛けます。

※四隅のゴム紐を強く引いたり、メッシュ部分に過度の重さを掛けますと破損の原因になりますのでご注意ください。

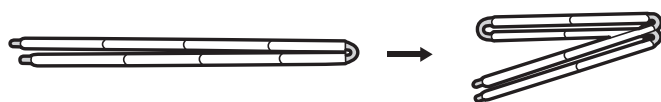
※メッシュギアハンモックは、携帯電話やクルマのキーなどの極軽量の物を載せるために作ってあります。重量物を載せることはしないでください。

■収納時の注意事項

□フレームをピンから外す時はフレームがハネ返り危険です。フレームが真っすぐになるまで手を離さないでください。

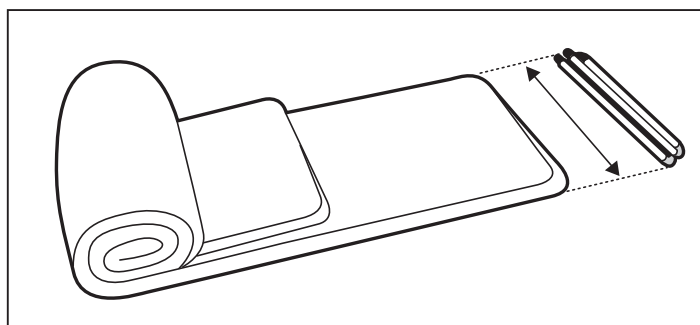
□スリーブからフレームを取り出す際は、押して取り出してください。

※フレームを引いて取り出すと、スリーブの中で連結部が外れることがあります。必ず押して出してください。外れた連結部で生地を傷めることがあります。

□フライシートに取り付いているズレ防止用のベルクロを外さずにフライシートを取り外した場合ベルクロ部が破損してしまう場合がありますのでご注意ください。

□フレームは中央から端に向かって折り畳んでください。端から折り畳むとショックコードに負担がかかり伸びや切断の原因になります。伸びが発生した場合、フレームを押さえる力がなくなり、フレーム折れの原因となります。ショックコードのテンションは定期的に点検してください。

■ケースへの収納

① キャリーバッグの長さに合わせ、本体、フライシートを折り畳みキャリーバッグの中に入れます。

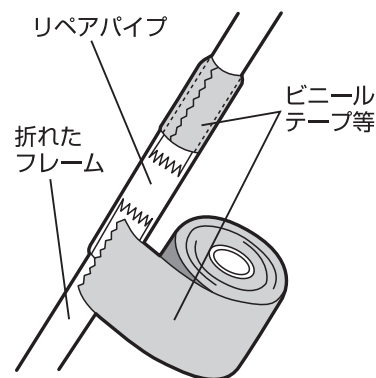
② フレームやペグはそれぞれ付属の専用ケースに入れ、キャリーバッグに収納してください。むきだしの状態で収納すると本体生地やキャリーバッグを損傷することがあります。

永くお使い頂くために

スノーピーク製品の優れた品質は正しい取り扱いとメンテナンスにより維持されるものです。製品の機能を損なわないためにも、以下のポイントに留意してください。

応急処置

□不測の事態によりフレームや、本体生地が損傷する場合がありますので、リペア用品（ガムテープ、ビニールテープ、添え木になるようなパイプなど）を携行し、速やかに応急処置を施してください。損傷したまま放置すると、大がかりな修理が必要になったり、修理不能になる場合があります。損傷度合いが激しいものは速やかにガムテープなどで両面から貼り合わせるか、撤収してください。

□本体生地が破れてしまったり、穴があいてしまったときは、傷が広がらない為にも、速やかにガムテープなどで両面から貼り合わせるか、撤収してください。

□フレームが折れたときは速やかにリペアパイプや添え木をあて、ビニールテープなどで固定するか、撤収してください。

撥水・防水性能について

□本製品はナイロンとポリエステル生地を組合わせて使用しています。いずれの生地にも高性能の撥水加工を施していますが、生地の特性上、撥水性能（撥水の仕方や、耐久性）に若干の差が見られる場合があります。ご了承ください。

□撥水加工は、ご使用を重ねますと撥水機能が低下します。撥水性が衰えてきたときは市販の撥水スプレーなどを使用してください。スプレーご使用の際は、スプレーの注意書きをよくお読みください。

□防水性の高い生地を使用しておりますが、地面の水溜まりなどと長時間接触していると生地に水が染み、色が変わることがありますが、防水性能に影響はありません。乾燥により色は戻ります。

□農薬などでPUコーティングが破壊され耐水圧が異常低下してしまう場合がございます。この症状と判断された場合、製品の保証が出来なくなりますのでご注意ください。

□強力な撥水材の影響によりロゴマークが剥離する場合がございます。

紫外線の影響について

□本製品にはフライシートの生地にUVカット加工を施しています。UVカット加工は、人体にとって有害な紫外線の透過を抑えると共に、生地の強度劣化を緩和します。
※UVカット加工は、紫外線による人体への影響や、素材劣化を防止するものではありません。

□テント素材は長時間日光にさらされた場合、退色や生地劣化などの強度低下を起こしますので、常設用として使用しないでください。

□紫外線の影響と思われる素材の劣化により、耐久度合を超えたものは修理できない場合があります。

メンテナンス・保管

□本製品にはナイロン生地とポリエステル生地を組み合わせて使用しています。生地の特性を考慮し、できる限り色移りし難い加工と配色パターンを採用していますが、保管状態などにより、色移りが発生する場合があります。ご了承ください。また、濡れたままの保管は避けてください。

□濡れたまま保管すると、カビや異臭、生地の色うつり、生地の劣化などのトラブルの原因となりますので、使用後は風通しの良い日陰で十分に乾燥し、柔らかいブラシなどで汚れを落としてから保管してください。

□カビが生えてしまった場合、付着した色を除去することは出来ません。表面に出ているカビを取り除き、アルコールなどで除菌してください。また、カビによりPUが破壊され水漏れが発生する場合がございます。

□フレームを通した状態のままで逆さまにしないでください。フレーム折損や生地損傷の原因になります。

□フレームは表面の汚れを落とし、十分に乾燥させてから保管してください。濡れたまま保管すると腐食、強度が低下します。
ジョイント部分は常に清潔にし、少量のシリコン系潤滑剤を薄く塗布してください。塗布し過ぎると生地に油ジミができますのでご注意ください。
またフレーム内部のショックコードは不必要に引っ張らないでください。

□高温多湿を避け、直射日光の当たらない風通しのよい場所に保管してください。

□ファスナーに泥や砂、ホコリなどが付着したまま使用すると摩耗し破損の原因になりますので、ブラシなどを使い常に清潔にしてください。また、スライダーの動きを滑らかにするために、少量のシリコン系潤滑剤を定期的に塗布してください。塗布し過ぎると生地に油ジミができますのでご注意ください。

□小さな生地の破損は市販のリペアテープで補修できます。補修の際はリペアテープの説明書を良くお読みください。

□ご使用により広範囲にわたり素材が劣化し、耐久度合を超えたものは修理できない場合があります。

□次回の使用に備え、ペグなどの付属品も含め、十分に保守、点検をしてください。

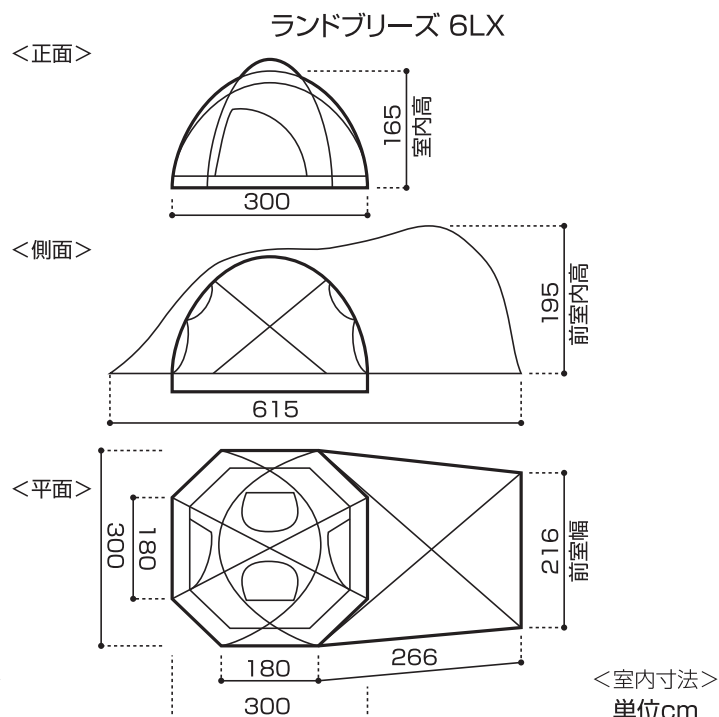
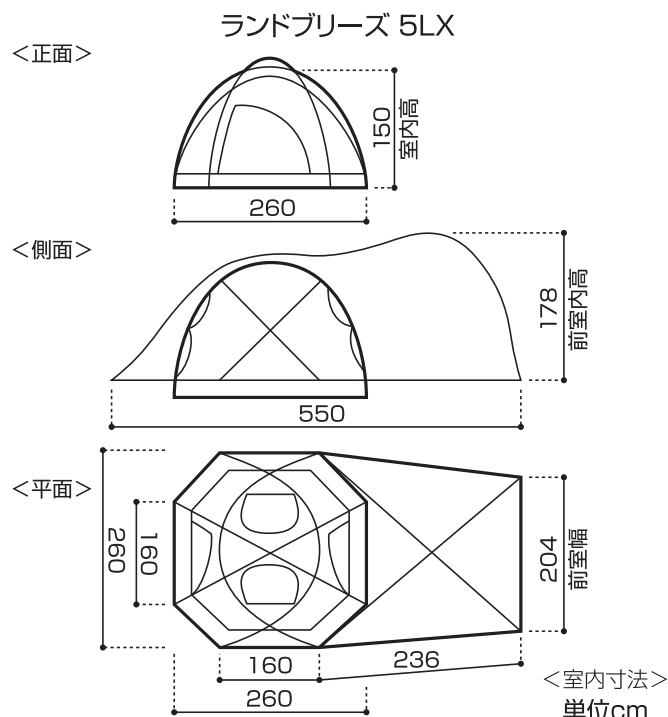
□シームテープはPUコーティングが傷まない程度の温度設定で圧着されていますが使用を重ねるにしたがい剥離してしまう場合がございます。剥離が確認された場合は、アイロンを低温に設定し、剥離箇所のみを再度圧着してください。熱を掛け過ぎた場合生地が変質したり劣化が促進されますのでご注意ください。シームテープは無理やり剥離させないでください。PUコーティングがいっしょに剥離された場合修理できなくなる可能性がございます。

修理について

□本格的な修理が必要な場合は、お買い求めになった販売店または弊社ユーザーサービス係までお問い合わせください。

□修理を依頼される場合は、必ず十分に乾燥させ、汚れをきれいに落としてください。

□修理品には修理箇所がはっきりと解るように、必ずメモまたは荷札を付けてください。また破損時の状況をできるだけ詳しく書いたメモを添えてください。

□修理品の運賃並びに修理費については以下のように規定させていただきます。
1. 保証対象の場合:往復運賃並びに修理費は、弊社にて負担いたします。
2. 保証対象以外の場合:往復運賃並びに修理費は、お客様のご負担とさせていただきます。

品質表示
SDY-005 ランドブリーズ 5LX
●材質
フライシート／70Dナイロンタフタ・75Dポリエステルタフタ・PUコーティング耐水圧1800㎜ミニマム・テフロン撥水加工（初期撥水100点、5回洗濯後90点）・UVカット加工
インナーウォール／68Dポリエステルタフタ
ボトム／210Dポリエステルオックス・PUコーティング・耐水圧1,800mmミニマム
フレーム／超々ジュラルミンA7001（φ11.0mm・φ13.8mm）A6061（φ14.5mm）
●キャリーバックサイズ　67×24×24㎝
●平均総重量　11.26kg
（フレーム、ペグ、ロープ含む）

品質表示
SDY-006 ランドブリーズ 6LX
●材質
フライシート／70Dナイロンタフタ・75Dポリエステルタフタ・PUコーティング耐水圧1800㎜ミニマム・テフロン撥水加工（初期撥水100点、5回洗濯後90点）・UVカット加工
インナーウォール／68Dポリエステルタフタ
ボトム／210Dポリエステルオックス・PUコーティング・耐水圧1,800mmミニマム
フレーム／超々ジュラルミンA7001（φ11.0mm）A6061（φ16.0mm）
●キャリーバックサイズ　73×25×25cm
●平均総重量　13.00kg
（フレーム、ペグ、ロープ含む）

品質保証について

スノーピークの製品は、フィールドで確実に機能するためにフィールドテストからスペックが決定し、長期間にわたって使い込んでいただけるような品質管理がなされています。万一、明らかに製造上の欠陥による問題が生じたときは、無料で修理又は新品と交換させていただきます。また、以下のような破損につきましては保証できませんのでご了承ください。

1.不測の事故による製品の破損
2.誤った使い方や粗雑な扱いによる製品の破損
3.経年変化や紫外線の影響による素材の劣化
4.その他製造上の欠陥以外による製品の破損
5.改造品の破損

※ご不明な点やお気付きの点がございましたら、販売店又は弊社ユーザーサービス係までお問い合わせください。

MADE IN CHINA

株式会社スノーピーク
address：〒955-8616 新潟県三条市三貫地958
phone：0256-38-1110　facsimile：0256-38-1015
URL：http://www.snowpeak.co.jp